

基本方針

6

快適で住みよい生活環境と、
豊かな自然に恵まれた
まちづくり

政策分野 13 都市基盤

関連する
SDGsのゴール

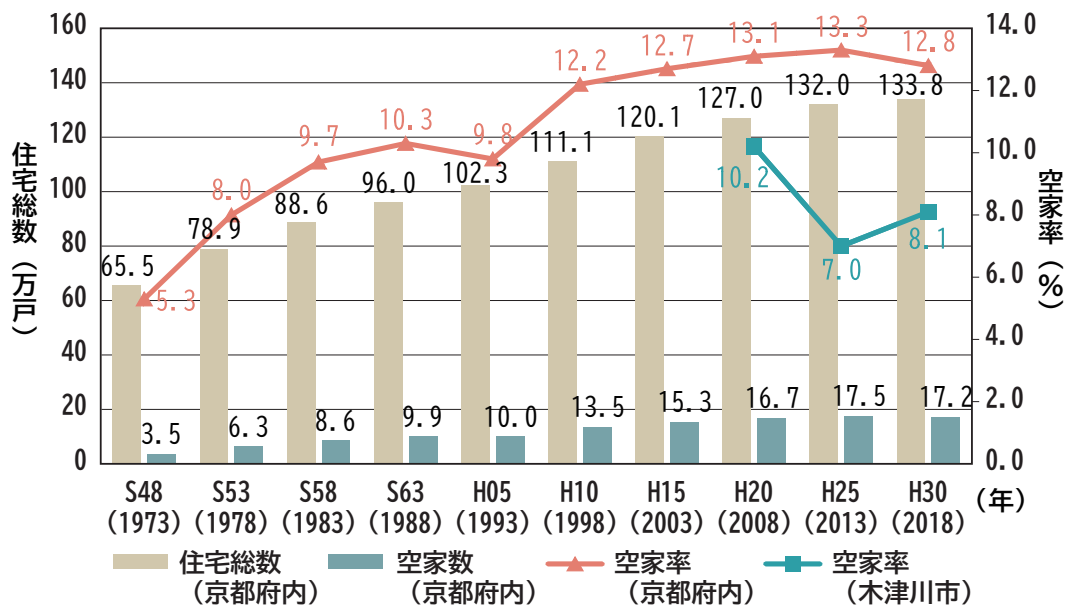


方針

- 計画的な土地利用、新たな拠点整備などにより、環境に調和した都市機能の充実、集約化とネットワーク化を図るとともに、良好な景観・まちなみづくりなどを進め、さらなる快適な住環境と地域魅力の向上を図ります。
- 入居世帯の高齢化や小規模化などにも対応した市営住宅ストックの整備、空家バンクの充実などによる空家・空き地の利活用で「住みたい・住み続けたい」と選ばれる住宅環境づくりを進めます。
- 適切な維持管理と耐震化工事などにより、上水道の安定供給確保と上下水道の防災性向上を図ります。

施策：都市環境／住宅／上下水道

京都府内の空家数及び空家率の推移



資料：「住宅・土地統計調査結果」（総務省統計局）、
空家率（木津川市）「第2次木津川空家等対策計画」（平成20（2008）年～平成30（2018）年）

背景・課題

木津川市は学研地区の開発などを背景に発展を続けてきましたが、成熟期に近づくなか、残された開発を計画的・効果的に進めるとともに、整備してきた住宅地や老朽化・震災リスクが懸念される上下水道について、維持・管理、更新に対応していく必要があります。

また、中山間地域を中心に過疎化、空家の増加もみられ、多様化するライフスタイルを視野に入れ、地域が持つ特性を活かす取組みが求められています。

関連計画

- 第2次木津川市都市計画マスタープラン後期計画（2021～2030年度）
- 木津川市過疎地域持続的発展市町村計画（2022～2025年度）
- 第2次木津川市空家等対策計画（2023～2027年度）
- 第2次木津川市営住宅ストック総合活用（長寿命化）計画（2023～2032年度）
- 木津川市新水道ビジョン（2024年度 中間改訂）
－安心・安全な生活と快適な暮らしを支える水道－
- 第2次 木津川市公共下水道ストックマネジメント計画（2020～2024年度）



関西文化学術研究都市*の街並み

施策① 都市環境

【所管課】学研企画課・デジタル戦略室・環境課・高齢介護課・都市計画課

I. 計画的な土地利用の推進

- ・都市計画マスタープランに基づき、各地の特色を活かす土地利用により、魅力的で持続可能なまちづくりを進めるとともに、都市機能の結びつきを重視したクラスター型*の都市形成を目指します。
- ・まちづくりの進行に併せて、都市環境の改善を目的とした用途地域の見直しを検討します。
- ・地区計画制度を活用して地域の特性を引き立て、自然や田園と都市環境の均衡を追求し、快適で良好な住環境の持続的な維持を目指します。
- ・学研地区では、住環境と産・学の環境整備を向上させ、自然の特質と魅力を最大限に活用した土地利用を推進します。
- ・無秩序な太陽光発電設備の設置の抑制を図り、良好な生活環境を保全し、安心・安全な生活を確保します。

II. 良好な景観形成の推進

学研地区の景観形成・土地利用

- ・学研地区においては、公共空間と一体的な美観を持つ魅力ある都市景観の形成、及び周辺の自然環境との調和を図りながらゆとりとうるおいのある市街地景観の形成を進めます。

自然と調和した都市景観形成の推進

- ・中心市街地などにおいて、住宅や商業・業務地などの地区の特性を活かしながら、地域になじんだ景観形成を進めます。

III. 木津駅東周辺地区整備事業の検討

- ・学研木津地区の玄関口であるJR木津駅周辺や城山台地区の間に位置する木津駅東側地区に関しては、JR木津駅や市役所、医療・保健施設などが集積する駅周辺の中心都市拠点の都市機能の強化を踏まえ、周辺環境に配慮しながら、計画的な市街地形成に向けた検討を市民とともに進めます。

IV. 人口減少地域の活性化

- ・過疎化・高齢化の進行や農業の担い手減少が進む中山間地域などにおいて、地域の活性化・振興のため、地域と連携して、観光や製品の流通などを通じた関係人口の創出を図るとともに、移住促進や定住化を推進します。

- ・加茂地域については、地域おこし協力隊の活用など、地域の課題解消に向けた取組みを推進し、子育て世代を中心に幅広い世代への移住施策を進め、人口減少の抑制を図ります。
- ・加茂地域を対象に高齢者の健康予防活動と日常生活を支援するため、高齢者の移動手段の確保や暮らしやすいまちづくりを進めます。

V. 情報通信基盤の整備

- ・公共施設などへの情報基盤（Wi-Fiなど）を整備し、市民サービスの充実を図ります。

VI. 墓地の適正管理の推進

- ・墓じまいをする人が増えるなど、墓地についての国民意識に変化が生じていることを踏まえつつ、合葬墓地記名板を増設するなど、市営墓地「思いでの丘霊園」の適切な管理・運営を図ります。

成果指標

指標項目	現況値 (2022年度末)	目標値 (2028年度末)
移住関連補助金申請件数（累計）	1件	10件
思いでの丘霊園合葬墓地使用許可体数	565体	↑

施策② 住宅

【所管課】学研企画課・施設整備課・都市計画課

I. 豊かで安心できる住宅セーフティネットの形成

- ・「第2次木津川市営住宅ストック総合活用（長寿命化）計画」において、維持管理などを行う市営住宅と位置づけた住宅については、維持修繕や改善、建替えなどにより、入居者の快適で安心・安全な住環境の確保を図ります。また、用途廃止と位置づけた住宅の入居者には、維持管理などを行う住宅への移転を勧め、安心して暮らせる住宅を提供します。
- ・建替えにより新たな住宅を整備する場合は、高齢者世帯や小規模世帯にも適した住宅にするとともに、カーボンニュートラル*の実現に向け、省エネ化・再エネ化に配慮した住宅整備を行います。

II. 市民の安心・安全な生活環境の確保

- ・空家防止策の情報を周知し、所有者などに対し適切な管理を促進するとともに、空家バンクなどの利用を促します。
- ・利活用可能な空家を地域資源ととらえ活用し、新たな居住者を呼び込むことで地域の活気を引き立て、まちの魅力を高める活動につなげます。
- ・移住特区での空家利活用を推進するため、移住特区内の補助制度の活用を支援します。

成果指標

指標項目	現況値 (2022年度末)	目標値 (2028年度末)
空家バンク登録件数（累計）	23件	30件

施策③ 上下水道

【所管課】環境課・業務課・工務課

I. 上水道の安定供給

計画的な施設更新

- 木津川市新水道ビジョン（中間改訂）に基づき、水道関連施設の老朽化対応や耐震性向上及び長寿命化など、施設更新を計画的に進めます。昭和49（1974）年に建設された山城浄水場の全面更新に令和4（2022）年度から取り組んでおり、令和8（2026）年度の完成を目指します。

経営基盤の強化

- 安全で良質な水道水を安定的に供給するため、事業運営の効率化や経費の削減に努め、持続可能な経営基盤の強化に取り組みます。

II. 下水道（污水处理施設）の整備と持続的なサービスの提供

水洗化の推進

- 下水道事業計画区域内の汚水・雨水の面整備を計画的な推進と適正な水質管理及び接続率の向上により、水環境を保全するとともに、老朽管の更新について優先順位を決め、長寿命化を図ります。
- 下水道処理区域外の地域においても、水環境への理解を促し、浄化槽の普及やその適正管理により、公共用水域への負荷削減を促進します。

下水道経営の健全化

- 将来にわたり安定的な公共下水道サービスを提供していくために、下水道事業経営戦略に基づき、経営の健全化・経営状況の明確化を図り、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に努めます。

III. 安定的なし尿処理体制の維持

- 相楽広域行政組合による安定的なし尿処理体制を維持するとともに、合併処理浄化槽の普及やその適正管理を促進し、市内全域の水洗化に取り組みます。

成果指標

指標項目	現況値 (2022年度末)	目標値 (2028年度末)
污水处理普及率	99.2%	99.5%

総

論

基本
構
想

基本
計
画

基本
方
針
1

基本
方
針
2

基本
方
針
3

基本
方
針
4

基本
方
針
5

基本
方
針
6

基本
方
針
7

資
料

政策分野 14 交通ネットワーク

関連する
SDGsのゴール

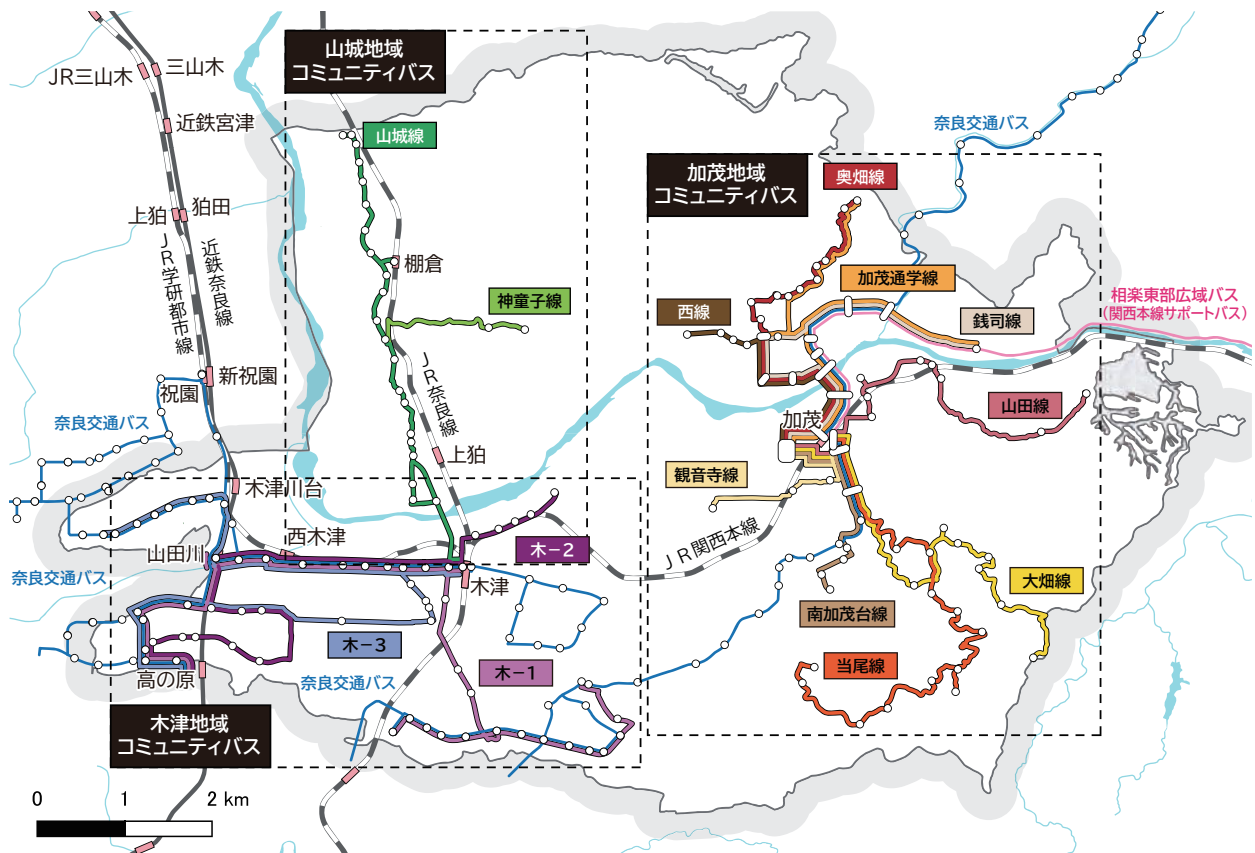


方針

- 高速道路など広域交通と接続する国道24号城陽井手木津川バイパスなどの道路や市内地域間を循環する道路、地域内の生活道路の整備を国・京都府などと連携して進め、市内の道路ネットワークを構築し、誰もが安心・安全に移動できるよう道路環境の改善に努めるとともに、道路や橋梁の老朽化に対応した適切な維持管理で道路インフラの強靱化を図ります。
- 鉄道やコミュニティバスなどの公共交通、及び他の移動資源により構成する、各拠点のまちづくりと連携した公共交通ネットワークについて、JR奈良線の全線複線化を目指すなどの改善を進めることで利便性を高めるとともに、持続可能な体系の構築を図ります。

施策：道路／公共交通

木津川市コミュニティバス路線図



背景・課題

木津東バイパス・東中央線の全線開通により、市内幹線道路の渋滞は緩和され、生活道路への通過交通進入の問題は改善されました。一方で、高齢者や障がい者、自転車など、様々な状況の人が安全・快適に利用できる道づくりへの対応が求められています。

JR奈良線の高速化・複線化が進み市外との利便性が高まる一方、他の路線の一部が減便されるなど、鉄道の維持・活性化が課題となっています。地域内交通については、高齢化による車を利用できない市民が増加するなか、市民・来訪者の日常生活の維持や、脱炭素*社会の実現からも、鉄道・バス・タクシーといった公共交通などで市内を移動できる環境の充実が求められています。

関連計画

- 木津川市道路舗装長寿命化修繕計画（2023年3月策定）
- 木津川市地域公共交通計画（2024～2028年度）



親子バス乗車体験



東中央線（木津川橋）

施策① 道路

【所管課】建設課・まちづくり事業推進室・管理課

I. 広域道路網の整備

- ・ 国道 24 号及び国道 163 号の渋滞の解消や歩道空間の改善、線形改良などに向け、関係機関に積極的に働きかけ、早期整備を目指します。
- ・ 災害時におけるネットワークの強化・地域経済の活性化のため、木津川右岸において、国道 24 号城陽井手木津川バイパスの木津川市を含む南側区間及び府道枚方山城線、山手幹線延伸について、関係機関に対し積極的に働きかけ、早期整備を目指します。

II. 主要地方道の整備

- ・ 主要地方道上狛城陽線及び同天理加茂木津線（大野バイパス）など府道の整備について、京都府と連携・調整を図り、早期の改良・整備を目指します。

III. 地域間道路の整備

- ・ 広域幹線道路の整備とともに、市域の地域間を結ぶ道路網の整備を図ります。
- ・ 市役所本庁舎へのアクセス道路となる市道木 335 号木津山田川線について、計画的に整備を進めます。

IV. 地域内生活道路網の整備

- ・ 安心・安全に近鉄木津川台駅にアプローチできる歩行者専用道路の早期完成を目指します。

V. 道路の適切な維持管理の推進

- ・ 歩行者及び通行の安全性・快適性を確保するため、予防保全の考えに基づく不良箇所などの早期発見・早期対応により、道路や街路樹の適切な維持管理に努めます。

成果指標

指標項目	現況値	目標値 (2028 年度末)
国道 24 号の混雑度	1.13 (2021 年度)	→
都市計画道路整備率	85.5% (2022 年度末)	86.3%

施策② 公共交通

【所管課】学研企画課

I. 地域公共交通ネットワークの形成

- ・高齢者など交通弱者の買い物や通院、外出、公共施設利用など生活環境の確保に配慮した地域公共交通サービスに向けた取組みを進めます。
- ・コンパクトで持続可能な魅力あるまちづくりを実現するために、円滑な公共交通の確保に向けて、木津川市地域公共交通計画に基づき総合的な公共交通施策に取り組みます。

II. 持続可能なコミュニティバスの運行

- ・交通空白地域の解消に向け、地域の実情に応じ、環境負荷の軽減や観光利用にも適合したコミュニティバスを運行するとともに、利便性による利用促進と運行経費のバランスがとれた持続可能な運行体系を目指します。
- ・先進自治体を実施するMaaS*の取組みを研究し、必要に応じ実証事業を行うなど、持続可能なコミュニティバス路線の構築を目指します。

III. 鉄道利用者の利便性の向上

鉄道網の維持・活性化

- ・JR奈良線の全線複線化の早期実現に向け、沿線市町や関連機関と連携を強化します。
- ・関西文化学術研究都市*としての発展やインバウンド*の誘客拡大、地域振興のため、JR片町線・関西本線の高速化・複線化や北陸新幹線南部ルート・リニア新幹線の早期整備を関係機関に働きかけます。
- ・京阪奈新線の近鉄高の原駅への延伸を関係機関に働きかけます。
- ・既存鉄道路線の維持のため利用を促進します。

利用者の利便性を高める取組みの推進

- ・市内の老朽駅舎の改築や鉄道施設のバリアフリー化を関係機関に働きかけるとともに、外国人も含めた利用者の利便性向上に向けた取組みを推進します。

成果指標

指標項目	現況値	目標値 (2028年度末)
コミュニティバスの年間利用者数	242,119人 (2022年度末)	280,000人
まちづくりに関するアンケート調査結果 「通勤・通学の交通の便利さ」	2.89* (2023年度)	3.00

* 満足度を加重平均した値。P11を参照

政策分野 15 自然・環境

関連する
SDGsのゴール

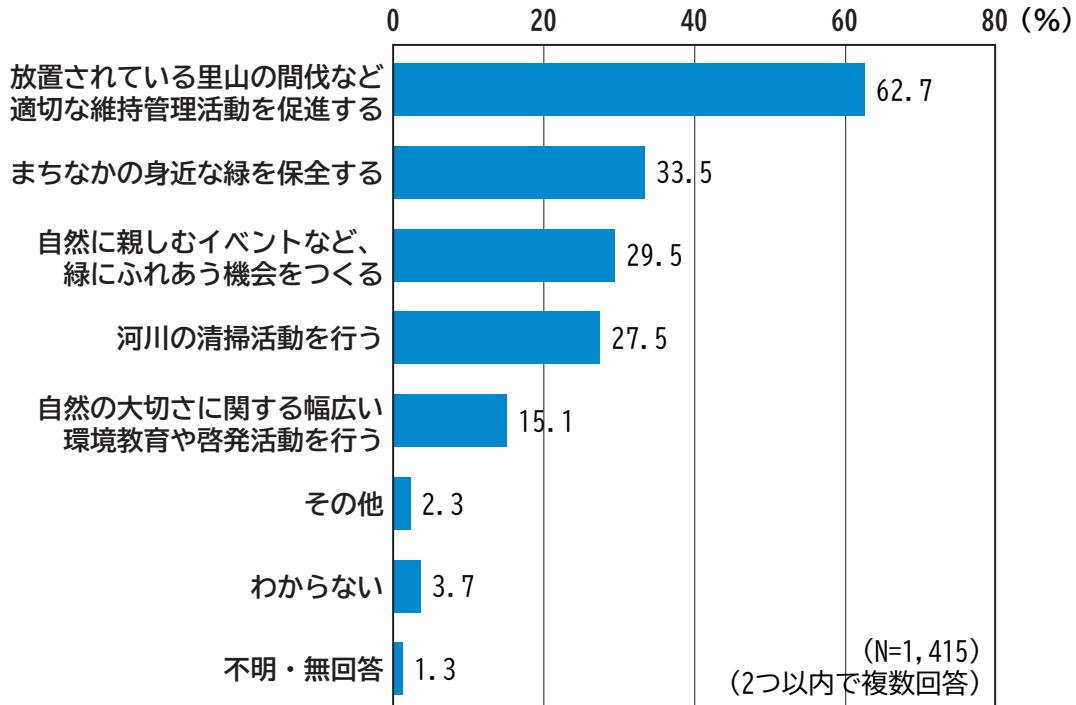


方針

- 「木津川市気候非常事態・ゼロカーボンシティ*宣言」を踏まえて、脱炭素*社会の実現に向けて、市民や事業者の参加、協働を図ります。
- 再生可能エネルギーの活用や省エネルギー対策などを推進するとともに、地球環境にも結びつく問題として廃プラスチックなど、ごみの適正処理・減量化、市民・事業者との協働による環境に配慮した生活、食品ロス削減、事業活動の普及啓発、環境学習に取り組み、脱炭素で循環型のまちづくりの取組みを強化します。
- 自然環境の恵みを将来にわたって享受するため、木津川の水や山の緑から身近な宅地内の緑まで、多様な自然と生態系を保全するとともに、人が自然と共に生きる意識の啓発を進めます。

施策：地球環境／地域環境／循環型社会・環境教育

景観・自然環境を保全するための優先的な取組み



資料：木津川市のまちづくりに関するアンケート調査結果（市民対象）（令和5（2023）年7月）

背景・課題

近年、集中豪雨などの異常気象が頻発するなど、気候変動が既に現実のものとなっています。地球温暖化対策は、将来世代に向けた現世代の責務であり、市民、事業者、行政が一体となって主要因である温室効果ガスの排出削減の取組みを強力に進める必要があります。

また、木津川や里地里山などの豊かな自然環境は、多様な生物を育て生態系を維持し、生活や農業など産業の基盤となり、市民生活に潤いを与えてっていますが、耕作放棄地の増加や都市開発などにより変化しています。その役割が将来にわたって果たせるように適切に維持・管理することが求められています。

関連計画

- 第2次木津川市環境基本計画（2021～2030年度）
- 木津川市地球温暖化対策実行計画（事務事業編・区域施策編）（2023～2030年度）
- 生物多様性第2次木津川市地域連携保全活動計画
～みもろつく鹿背山再生プラン～（2024～2033年度）
- 木津川市公園施設長寿命化計画（2023～2032年）
- 木津川市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（2010～2024年度）
- 木津川市ごみ減量化推進計画（もったいないプラン）（2012～2024年度）



エコフェスキづがわ



木津川台公園

施策① 地球環境

【所管課】総務課・環境課

I. 脱炭素*社会に向けた取組みの推進

- ・ゼロカーボンシティ*の実現を目指して、地球温暖化対策実行計画（事務事業編・区域施策編）を策定します。
- ・「デコ活宣言*」に基づき、市民と協働でカーボンニュートラル*の実現に向けた取組みを推進します。
- ・地球温暖化対策の必要性及び市民・事業所が実行できる再生可能エネルギー、省エネルギーに関する情報発信に努めるとともに、普及促進に向け補助制度を充実します。
- ・市役所をはじめとする公共施設において、温室効果ガスの排出削減のための各種対策に取り組むとともに、再生可能エネルギーの導入を進めます。
- ・計画的に公用車の電気自動車の増車を進めます。

成果指標

指標項目	現況値	目標値 (2030年度末)
市の事務・事業による温室効果ガス総排出量	5,443 t - CO ₂ (2022年度末)	3,689 t - CO ₂
木津川市域から排出される温室効果ガス 総排出量	268 千 t - CO ₂ (2020年度末)	160 千 t - CO ₂

施策② 地域環境

【所管課】環境課・管理課・都市計画課・農政課

I. 木津川や山々の緑の保全と育成

- ・市民団体などと協力し、木津川や里地里山など自然豊かな生態系を守るための保全活動と、その重要性を学ぶ環境教育に取り組みます。

II. 宅地内緑化の推進

- ・新市街地や住宅地では、地区計画制度を利用して生け垣などの緑化活動を推進し、環境に配慮したコミュニティ*の形成を促進します。

III. 公園、緑地などの整備・維持管理

- ・公園・緑地には、レクリエーションや憩いの場として多様なニーズに応えられるサードプレイス（第三の場所）としての役割が期待されているほか、ヒートアイランド現象*の緩和、火災の延焼防止など、持続可能な都市を支えるグリーンインフラ*としての機能を向上させる必要があることから、地域ごとの特性を活かし、樹木診断や植替えなどの環境・植栽整備に取り組みます。
- ・公園施設の効率的・計画的な長寿命化・バリアフリー化に取り組むと同時に、ユニバーサルデザイン・インクルーシブデザイン*を取り入れた遊具など施設の更新・整備を実施し、誰もが楽しめる魅力ある公園づくりに取り組みます。
- ・市民自主管理活動の推進に加え、個別又は複数公園において、市民や事業者などが参画する協議会の設置や、マネジメント計画を策定するなど、より柔軟な管理運営に取り組みます。

IV. 河川・地下水の水環境の保全

- ・市のシンボルである木津川とその支川流域の水質汚濁の防止に努めるとともに、木津川を美しくする会などのボランティア団体による美化・啓発活動を支援します。
- ・河川の水質調査などの環境測定を行い、市内の環境の継続的な状況把握に取り組みます。

V. 動物愛護意識・行動の啓発

- ・人と動物が共生・共存できる社会の実現に向け、関係機関と連携し、飼い主のモラル・マナーの向上と動物の愛護・適正管理に関する啓発活動を進めます。
- ・飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費の補助事業に取り組みます。

成果指標

指標項目	現況値 (2022 年度末)	目標値 (2028 年度末)
アダプトプログラム*登録団体数	45 団体	50 団体
都市公園・緑地施設等市民自主管理活動実施公園数	20 か所	30 か所

施策③ 循環型社会・環境教育

【所管課】環境課

I. ごみの適正処理・減量化

- ・木津川市精華町環境施設組合と連携し、エネルギー回収、温暖化防止などに配慮した「環境の森センター・きづがわ」で効率的なごみ処理を図ります。
- ・廃棄物の適正な収集・運搬・処理、不法投棄対策などにより、生活環境の保全を推進します。
- ・一般廃棄物(ごみ)処理基本計画、ごみ減量化推進計画の改定を行い、食品ロス、廃プラスチックなどごみの減量化と再資源化を推進します。
- ・循環型社会推進基金の活用として、「雑がみ保管袋」を全世帯に配布します。また、分別による廃棄物減量と啓発に取り組むなど、ごみの減量化と再資源化など、地球環境問題の解決に向けた活動を推進します。

II. 環境教育と環境保全活動の推進

- ・エコリーダー「くるっと」(木津川市廃棄物減量等推進員の会)、こどもエコクラブ、地域、学校、事業所などにおける環境教育・環境保全活動を支援するとともに、環境イベントなどの開催に取り組みます。

成果指標

指標項目	現況値 (2022年度末)	目標値 (2028年度末)
市民一人あたりの家庭系可燃ごみの排出量	394.6 g / 日・人	↓
家庭系一般廃棄物のリサイクル率	22.9%	↑